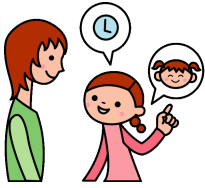


1

きちんと断れるかな？



子どもは知らない人でも、自分に優しくしてくれる場合はつい気を許してしまいます。

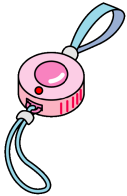
このような場合は「お母さんに聞いてきます。」「いりません。」等ときちんと断るように話してください。

また、外出する時は「だれと、どこに、何をしに、何時に帰る。」を言ってでかける習慣をつけさせましょう。

「携帯電話を持たせているから、いつでも連絡ができるだろう。」という過信は禁物です。

2

大声を出せるかな？



子どもが大人からいきなり手や腕をつかまれると、驚いて声が出なくなったり、身動きができなくなる場合があります。

○「助けて。」と大声を出して周囲に危険を知らせること。

○防犯ブザーを鳴らすこと。

○ランドセルやバッグを投げ捨てて身軽になり逃げること。

を説明してあげてください。

3

連絡先を決めましょう



子どもは「お父さんが言っていたよ。」「お母さんに頼まれたから。」という言葉に騙されやすいものです。

普段からお子さんに「お父さんやお母さんは、あなたの知らない人にあなたを連れてくるように頼んだりしないわよ。」と話してあげてください。

何かあった時の緊急時の連絡先や、誰が迎えに行くか等を家族で決めておくことも一つの方法です。

4

留守番時のルールを決めましょう



子どもを騙して家の中に入ろうとする悪い人もいます。

子どもだけに判断を任せるのではなく、親が対応方法をしっかり決めて子どもに教えることが大切です。

○ドア越しやインターホンで「お父さんに連絡して聞いてみます。」

「もう少しでお母さんが帰ってきます。」と対応する。

○誰かが来ても応答しない。

など、1人で留守番させる時の家族のルールを決めておきましょう。

①できるだけ子どもを1人にしない工夫をする。

②「我が家の防犯ルール」を作る。

③自分の身を守る力をつけさせる。

ことが重要です。

